

令和5年度 小川保育園 保育所自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びに、その公表が努力義務とされています。

このことを踏まえ、小川保育園では保育の質の向上を図る為に、保育所の自己評価を実施致しました。

評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

【評価について】

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

◎ーよくできている ○ーほぼできている △ー努力が必要

※コロナ感染症の影響により評価不可の場合は一で表示

【評価対象期間】

令和5年4月1日から令和6年3月31日

【評価責任者】

園長 尾島久枝

1. 保育理念

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育理念、保育目標を理解し正しく説明することができる。	◎	入社時、全体研修などで保育理念を伝えている。
保育園の園目標や方針が保護者に知らせている。	○	入園時・保護者会で重要事項説明書にて全員に口頭説明。今年度はコロナ感染症による影響で保護者会が開催できなかった。

2. 保育計画

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育計画を作成し、見直しをもった保育を実施している。	◎	保育所保育指針に基づき、保育課程、年間保育計画月案、週案を作成している。
年間計画、年間行事の見直しをしている。	◎	毎年、年間行事の改定を行う。今年度は行事の中止が多く、園内で様々な検討を行った。

3. 人権尊重

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
子どもの人権が尊重され、大切にされていると感じる。	◎	子どもの思いを大切にし、子どもが理解しやすい言葉で伝える。 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを汲み取るよう努力している。

4. 個人情報保護

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
個人情報の扱いについて入園時等で説明されている。	◎	守秘義務の周知徹底に努めると共に、書類等個人情報に関わるものに関しては、鍵のかかる場所に保管している。園内研修などで守秘義務について周知している。
業務上で知り得た子どもの情報に関する守秘義務について全職員で周知している。	◎	
保護者からの相談の内容の守秘義務について全職員で周知している。	◎	

5. 保育内容

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
遊びに入れない子どもや、全体の様子に気を配っている。	◎	一人ひとりの子どもに気を配り、丁寧に関わるようにしている。
子どもがのびのびと意見や意思が表現できるような保育が行われている。	◎	子どもの発言を聞き、保育者は年齢に合った対応、肯定的にとらえるように努めている。
遊びを通して、友達や保育士との関わりが十分持てるよう配慮されている。	◎	保育者自身が一緒に身体を動かしながら楽しんで保育している。
遊びや生活を通して人間関係が育つような配慮をしている。	◎	いろいろな友達と遊んだり、協力して生活できるように保育者が率先して行動して

		いる。
身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている。	◎	散歩や菜園活動を通して草花などの自然に触れている。毎年、近隣の老人ホーム訪問を行っているが、コロナ感染症の影響によりビデオレターを届ける予定。
園の行事や保育の内容などが知らされている。	◎	年間行事計画表・毎月の保育だより・各年齢のクラス通信を配布したり、保育活動の写真を掲示板に貼り、活動を伝えている。

6. 保育環境

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
園内外が清潔で心地よい空間となっている。	◎	掃除分担表を作成し、日々清潔な環境作りをしている。
年齢に応じた保育が提供できるような環境である。	○	年齢ごとに仕切られた保育室で落ち着いて生活ができる。
子どもが落ち着いて過ごせるよう、保育室の雰囲気やおもちゃが工夫されている。	◎	子どもたちの手の届くところに年齢に合ったおもちゃを用意している。

7. 特別な支援を要する子どもへの対応

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	◎	一人ひとりの子どもの発達状況に配慮し、保護者と連携を取りながら個々に合った保育を行う。

8. 保護者支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
意見や要望などへの対応ができている。	◎	行事後に感想・要望等を手紙で受け取り、行事の内容の見直しや今後の保育内容の改善の参考にしている。 「らくらく連絡網」を使用し、迅速な連絡が行き届くようにした。
職員が子育て等、話しやすい雰囲気や態度で接している。	○	保護者の思いを理解するように努め、丁寧に対応するように心掛けている。保護者と子どもに笑顔で挨拶をし、気持ちの良い対応をしている。

9. 安全対策・健康監理

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育中の体調への気配りや怪我等に対して配慮されている。	◎	事故、怪我のないよう声を掛け合っている。各マニュアルを設置し、園内研修にて周知している。看護師を配置し、熱や怪我の対応をしている。
感染症の発生状況や注意事項などが知らされている。	○	保健だよりの発行。感染症発生時には掲示、一斉メールなどにてお知らせする。
子どもの成長を把握している。	◎	年2回の健康診断、毎月の身体測定の結果を保護者、保育者、看護師と情報共有している。
不審者対策を行っている。	○	年2回の不審者対応訓練を行っている。

10. 給食

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
給食が楽しく食べられるように工夫されている。	◎	行事食や季節のメニューを取り入れたり、献立を伝えて食べることに興味を持ってもらえるようにしている。机の配置や座る場所を変え、工夫している。
食育を通して子ども達が食に興味を持てるようにしている。	◎	年間食育を立て、見通しを持った食育を行っている。行事に関する献立を作成し食文化を伝えている。
子どものサインを見逃さないようにしている。	◎	年齢に応じた形態を栄養士が事前に確認してから提供している。食事中は食べる事に無理強いせず、前後の体調の変化にも注意している。
アレルギー除去食の対応。	◎	職員間でのアレルギー児の把握。栄養士・担任が確認し合い給食を提供。
衛生管理の徹底。	◎	衛生マニュアルに基づき徹底。正しい手洗いから始まり、清潔なエプロン、三角巾、マスクの着用。調理室内の衛生、掃除の徹底。

11. 地域支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
地域との関係が適切に保たれている。	◎	日頃よりあいさつや声掛けをしている。民生委員と連絡を取り合っている。
地域の子育て支援、交流。	○	「赤ちゃんサミット」「パパママ先生」保育士体験など再開されて、交流を深める事ができるようになった

12. 職員育成

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
職員の質の向上に努めている。	◎	職員に研修を受ける機会を設け、そこで学んだことを園内研修にて全員に周知している。保育士としての立ち振る舞いを指導している。
社会人としての振る舞いを指導している。	○	正しい言葉遣いで接客や電話対応するように指導している。自分の仕事に誇りを持つよう声掛けをしている。

【園全体の評価】

新型コロナウイルスが5月に5類になったが引き続き園児の感染症予防に努めながらの保育であった。しかしながら、保育行事などでは保護者の保育参加も少しずつ緩和された事で、親子で育ち合える環境も増え、改めて親の保育参加の大切さを感じる事が多かった。また、両園の保育交流もできるようになり、保育目標にもあるような開放的な保育へと変わってきたのは今後の保育の希望となった。

感染対策の作業も省略できる事も増え、保育士の作業も軽減された事で子どもとの関りを大切にできるようになってきた。

保育では、山登りや野遊びなど、たくさんの場所に散歩で行く事もできて、子どもの体つきに変化がみられ、自然の中で健康的な身体づくりができた。特に、遠足で筑波山や赤城山など県外の山登りにも出かけられるようになり、子ども達の冒険心や好奇心など満たせるようになった。

また、日常的に歌やリズムを心から楽しく表現する事ができるようになり、絵本など文化的な活動も行えるようになり、心の成長も見られるようになった。

わんぱく子ども祭りでは、ようやく保護者も参加できるようになり、親子競技や親競技など両園開催で多くの保護者と共に楽しめる事ができた。

地域の方々との関係も、以前のように再開されてきて、地域の方の畑にサツマイモ堀やジャガイモ堀など訪問収穫ができるようになった。また、保護者の協力で、プールの解体なども手伝ってもらい保育協力もできるようになり、保護者と地域の方に支えられて保育ができる環境になってきた。